

## 令和6年度教育推進指定校における研究公開のまとめについて

学校名	開催期日	指 定	研究主題		短評	研究教科等	講演等	参加人数			
								市内	市外	県外	総計
原小学校	9月20日 (金)	令和5・令和6年度 東広島市 教育推進指定校	説明的文章教材の「読む力」を高める国語科授業づくり - 交流の場における1人1台端末の効果的な活用を通して -	成果	第0次を設定した単元づくりの工夫、1人1台端末を効果的に活用した交流場面の工夫、1人1台端末の操作スキル等向上のための帯時間の工夫を研究の柱として取り組み、児童の主体的に学びに向かう姿勢が育まれていた。特に、1人1台端末の活用は、教職員が協働的な試行錯誤や帯タイムの活用を通じた発達段階等を踏まえた取組を実現しており、目指す子供の姿の実現に向けた意欲的な研究姿勢は、他校に良い刺激を与えるものであった。	国語科	<講演> 安田女子大学 教授 難波 博孝	190	1	0	191
				今後に向けて	本研究を通じた児童の変容について、量質ともに丁寧な評価を行い、取組のたゆまぬ改善につなげるとともに、教職員の協働により蓄積された、1人1台端末の多様な活用方法等を含む、研究成果を広く発信することを期待する。						
高美が丘小学校	10月25日 (金)	令和5・令和6年度 東広島市 教育推進指定校	本気で学び、豊かに表現し合う子どもの育成 - 学びのプロセスを価値づける子ども主体の授業づくりを通して -	成果	協働的な学びの充実に向け、学習集団づくりの考えを基盤とし、個や集団の思考プロセスを重視した教育実践を積み重ねることにより、児童主体の学びへの転換へとつなげた。また、教育研究のOJT化により、全ての教員が、教育課題の解決と自己研鑽に日々取り組む仕組みを構築した。学級経営や授業づくりに丁寧に取り組む教職員の姿勢への参加者からの評価が高く、「探究心をもち子供とともに学び続ける教職員」を目指す取組の好事例となった。	国語科 算数科	<協議会> 広島都市学園大学 教授 深澤 悦子      大阪教育大学 准教授 吉田 茂孝  広島大学 准教授 福田 敦志      安田女子大学 准教授 熊井 将太 広島大学 准教授 吉田 成章      大阪体育大学 准教授 八木 秀文  <講演> 安田女子大学 教授 深澤 広明	227	4	2	233
				今後に向けて	子供の居場所づくりとなる丁寧な学級経営を引き続き重視するとともに、個別最適な学びの視点を加えることで、従来の一斉指導の枠を超えた、学習主体である児童が個性のかつ自律的に学びを進めることのできる授業づくりを期待する。						
中黒瀬小学校	10月30日 (水)	令和5・令和6年度 東広島市 教育推進指定校	児童が考える楽しさを実感できる授業の創造 - 思考場面における問いの設定を通して -	成果	導入場面で、児童が考えなくなる「問いを引き出す」こと、課題追究場面で、児童の思考を深めるための「教師による問いを示す」ことにより、児童が課題解決に向けて主体的に取り組んでいた。また、1人1台端末の活用等による振り返り活動の重視により、児童のメタ認知の促進と達成感の享受につなげていた。教師の「質の高い『問い』を設定する力」を高めるとともに、児童の好奇心や自主性を大切に、挑戦する心を引き出そうとする取組となった。	国語科 算数科 特別支援教育	<分科会> 広島女学院大学 教授 細 恵子  広島大学附属小学校 教諭 岩本 充弘  広島県立黒瀬特別支援学校 教育相談主任 山崎 善弘	260	6	0	266
				今後に向けて	自律的な学び手の育成を目指し、本研究の成果を踏まえた総合的な学習の時間等での探究的な学びの展開、とりわけ、児童が主体的に判断し行動する場面の創出と、課題解決ツールとしての1人1台端末の活用の強化を期待する。						
河内小・中学校	10月31日 (木)	令和5・令和6年度 東広島市 教育推進指定校	自分の考えを進んで表現する児童生徒の育成 - 「問いを創る授業」の手法を活用した課題発見・解決学習を通して -	成果	子供たちの着眼点、素直な疑問を大切に「問いを創る授業」の実践を通して、児童生徒の学びの姿や思考への着目が促され、教師のファシリテーターとしての役割を意識した授業づくりへの転換を図ることができた。また、児童生徒の表現力の向上に向けて、1人1台端末の活用、遠隔システムを活用した学びの場の創出等、教育活動を全体的に見直すことにより、児童生徒自身が表現力に課題意識を持ち、その課題に向き合う姿が次第に広がってきている。	小学校:算数科 中学校:各教科	<講演> 立正大学 教授 鹿嶋 真弓	236	9	3	248
				今後に向けて	本研究での成果を、本校の特色ある教育活動である「地域創生プロジェクト学習」に活かし発展させることで、小中一貫教育の充実を図るとともに、その取組や子供たちの育ちと学びを地域及び他校に積極的に発信することを期待する。						

合計

913    20    5    938